

名古屋芸術大学グループ 通信

64
April
2025



NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS DEGREE SHOW

【特集】
第52回 名古屋芸術大学
卒業制作展・修了制作展



名古屋芸術大学グループ

<https://www.nua.ac.jp/>

■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科
美術研究科
デザイン研究科
人間発達学研究科

学部学科：芸術学部 芸術学科
音楽領域 舞台芸術領域
デザイン領域 美術領域 芸術教養領域
教育学部 子ども学科

■名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
■濠子幼稚園 ■たきこ幼児園 ■たきこ第二幼児園に
■奥知保育園 ■幼保連携型認定こども園 森のくまっこ
■名古屋音楽学校

特集

第52回卒業制作展・ 大学院修了制作展

2025年2月15日(土)～2月24日(月・祝)、本学西キャンパスで名古屋芸術大学卒業制作展・大学院修了制作展を開催しました。本特集では、特に優秀だった作品をピックアップ、キーパーソンのコメントと共に、今回で52回目となる名古屋芸術大学卒業制作展・大学院修了制作展を振り返ります。



第52回卒業制作展・ 大学院修了制作展を振り返って

副学長/芸術学部長/技術センター長 萩原 周

WebやSNS、それらを含めた“情報”が身の回りにあふれる時代になり、経験や体験、さらには記憶に似た感覚などを手軽に入手することのできる時代になり久しいです。そうした仮想の体験のようなものを通していろいろなことができる時代を経て、どこかそうしたものの不安を持ち始めているのではと思います。多くの作品から、“本物”“本当”“本来”“本質”…、そうした“本”ということへの要求を強く感じました。今回は「確からしさ」というか、リアルな実感や身体的な感覚を取り戻そうと見受けられました。学生だけでなく、教員や来場者も同じ環境に浸っています。以前ならば、どんなものにおいても、もっと確からしい感覚があったように思います。最近では“それらしさ”を簡単に手に入れられるようになりましたが、それが本物や本質かという、そうではない。人間は、暑さや寒さ、怪我をすれば血を流し痛みを感じるといった現実と、“それらしさ”との乖離のようなものをどうにかして埋めよう、そんな衝動が作品化されたものが数多くあったように感じます。

来場者からは、例年にくらべ学生らしいインパクトに欠ける、完成度は高いが小さくまとまっているといった声も聞かれました。しかしながら、非常に丁寧な仕事を行って本質を追究し、深いところへたどり着いている

作品も印象に残りました。最優秀賞の「線は呼吸している」(ヴィジュアルデザインコース 鈴木雅也さん)は、表現の基礎的な研究であり、従来のグラフィカルな考えに生物学的な見方を持ち込んだ、これまでのデザインの研究に対するひとつの答えになっていると思います。細やかさの中に身体的な感覚を模索する、「確からしさ」への探求を感じさせる作品となっています。

今年度は、2021年度に開設した舞台芸術領域から初めての卒業生を輩出することができました。その記念すべき第1回の卒業公演が「コジ・ファン・トゥッテ」。モーツァルトのオペラを上演したということに、同じように“本質”への回帰といった印象を受けました。

学校側の課題ではありますが、音楽領域内での協調と専門性の棲み分けがまだ完成していないように思っています。舞台芸術領域も含めてどんな形で協働していけるのか、その組み立てをより良いものにしていきたいと考えています。

昨年度の卒業制作展では来場者数が6,000人を超えましたが、今年度はさらに増加し、過去最高の来場者数となりました。学生の作品発表の場として、また、大学の教育成果やブランド力を広くアピールするための機会として位置づけ、発信に力を入れていきたいと考えています。



のぞけ、
頭の中。



線は呼吸している



線は呼吸している

卒業・修了制作展 最優秀賞



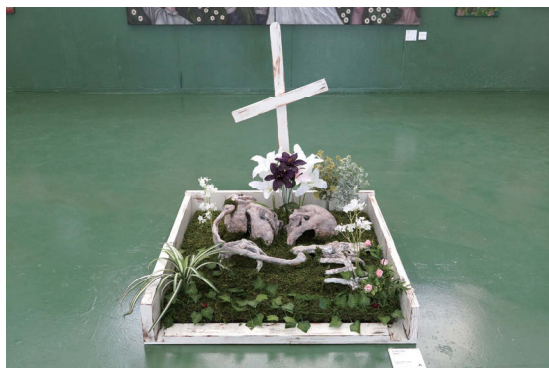
ヴィジュアルデザインコース
鈴木雅也

“線の集まりが美しい”という感覚を視覚的に表現し、静止しているにもかかわらず、動いているように見える効果を狙った作品。黒の背景がスリットのように見え、水面の波紋や草原に吹く風を思わせる躍動感と完成度の高さが印象的です。ラインを構成するパーツは、1本線、2本線、3本線、角度を付けた線、グレーの線の7種類。それらを組み合わせてパターンを作成し、ラインとラインの透き間によって“動き”を表現していきます。

制作にあたり、当初は立体作品も検討していたとのこと。線の動きを探るため、うどんを茹でて板に並べてみたり、紐をねじって吊るしてみたり、トレーシングペーパーを細く切ったインスタレーションを試みたりと、さまざまな実験を行ったといいます。夏休みには風に揺れる草原を動画撮影、繰り返し観察して、一度はアニメーションを制作。さらに観察することで、静止した平面作品でも動きを表現できることに気がついたと説明します。

「苦労したのは展示で、作品についてまとめた冊子の製本や、作品の見せ方について、わかりにくいという指摘を受け、展示の配置を調整して、線の揺らぎが感じられるようにしました」。





春の葬式

卒業・修了制作展 優秀賞

北名古屋市教育委員会賞

画荘ヴィーナス賞



洋画コース
都築真由

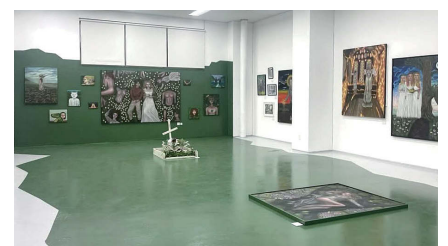
「生と死」をテーマにした絵画とインスタレーションで構成された作品。手前にある骸骨、十字架のオブジェは現実世界、その奥に広がる絵画は彼岸を表す空想世界となっています。

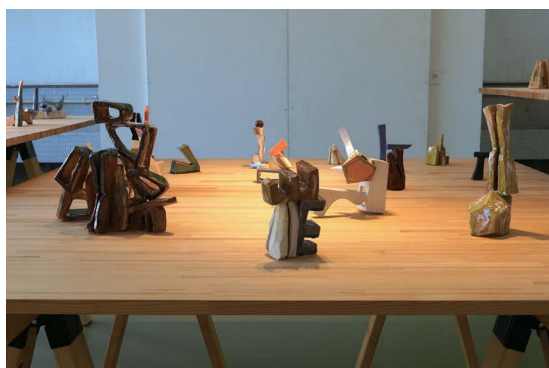
都築さんは幼い頃から独特の感覚を持ち合わせ、通常では見えないものを見たり感じたりし、時には辛い思いをしてきたといいます。そうした自身が感じている世界を、作品で表現しています。描かれている白い花は、キク科のノースポール（カンシロギク）で、

花言葉は「輪廻転生」。モチーフとして登場する蝶と蛾は、彼岸と此岸を行き来するメッセンジャーと説明します。不気味にも見えるたたずまいの人物や動物、人体の一部なども描かれていますが、怖さを伝えるのではなく、自身が感じている生き方や死の受け止め方を表現しているといいます。死はすべてが無に帰す終わりではなく、ひとつの通過点と捉え、恐れるものではなく新たな形への移行とし、「死があるからこそ、今の人生をどう生きるかが大切になる」と作

品に対する思いを語ります。

制作にあたっては、表現したい事柄に対して技術が追いつかず、また、経験の少ない立体の制作など、アドバイスを受けながら試行錯誤を重ねたとのこと。





アソビ

卒業・修了制作展 優秀賞

北名古屋市市長賞



工芸コース
古池拓人

粘土で自由に形作る感覚が“遊び”の感覚に近く、そのことがコンセプトになっています。幾何学的でありながらも歪んだ形の焼き物が、カラフルな釉薬を施されてオブジェとして数多く並べられます。カラフルな作品群ですが、釉薬の色合いに深みがあり、軽やかさだけでない作者の心証を感じさせるものがあります。

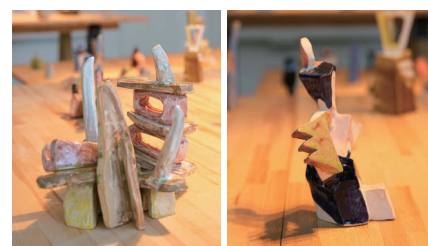
「粘土は形がない素材で、形を持たないことで自由度が高くなる反面、完成形が把握できない」と粘土を扱うことに難しさを

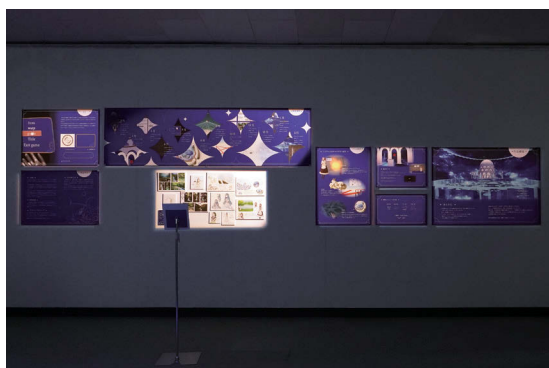
感じ、“粘土に仮の姿を与える”という発想から制作が始まったといいます。子供の頃に遊んだブロックを思い出し、粘土でブロックのパーツを作るような感覚で作り始めたそうです。

作品ひとつひとつが持つ“アソビ”の要素である作品の歪みは、3Dプリンターを使用した制作体験がきっかけだったとのこと。「容易に正確で美しい形を作り出すことができますが、期待を超える驚きは生まれず、物足りなさを感じ、“歪み”や“不完全さ”に

人間の手作業の魅力を感じました」。

同時に歪みは自分自身の分身であり、個性であることを感じたといいます。「焼き上がりの瞬間に現れる偶然が生む美しさを大切にしました」。





AnoRea/Stellarise.

卒業・修了制作展 優秀賞



ヴィジュアルデザインコース

高橋美優

先端メディア表現コース

木下朋香 / 前田翔勇 / 山形篤輝

ヴィジュアルデザインコース1名、先端メディア表現コース3名からなる制作ユニット「AnoRea」による作品「Stellarise.」は、VRを用いたゲームがメインとなっています。VRゴーグルを使い、実際に動いて楽しめるものが開発の主眼になっています。動作と触覚から没入感を高め、ゲームの世界観や空気を体験できるようになっています。

もともとAnoReaのメンバーは、メディア関係の制作を行っているサークルで活動を共にしていた仲間で、コースの枠を越えて

の制作となりました。展示空間の構成や演出、ゲームプログラム（山形さん）、シナリオ制作やキャラクターデザイン（木下さん）、UIデザイン、ヴィジュアルデザイン（高橋さん）、音楽制作、全体統括、進行管理（前田さん）と、それぞれの得意分野で役割分担を行い、完成度の高い作品となっています。

ゲームの内容としては、星座をモチーフに12のミニゲームを制作する予定で、卒業制作ではそのうちの3つをデモンストレーション。今後、SteamやMicrosoft Storeでの販

売を視野に入れ開発を継続していくとのこと。また、身体を大きく使うことのできるレジャー施設や商業施設での展開も検討中と、今後が楽しみなプロジェクトです。





Pam chair

卒業・修了制作展 優秀賞

ブライトン大学賞 佳作



スペースデザインコース
鳥山未愛

椅子のクッション部分をパンで作ってしまっただけのユニークな作品。パンのふかふかした感触や香りなど、五感に訴える要素を家具に落とし込むことを目指しています。

作者の鳥山さんは、パン好きが高じ、とりわけ焼きたてのパンの香りや温かさに安心感や幸福感を感じる、質感や形の面白さからなにかできないか考えたといいます。また、発酵して膨らむという、パンができるまでの製造プロセスの面白さから、パンへの興味が一層増したそうです。最初は素材

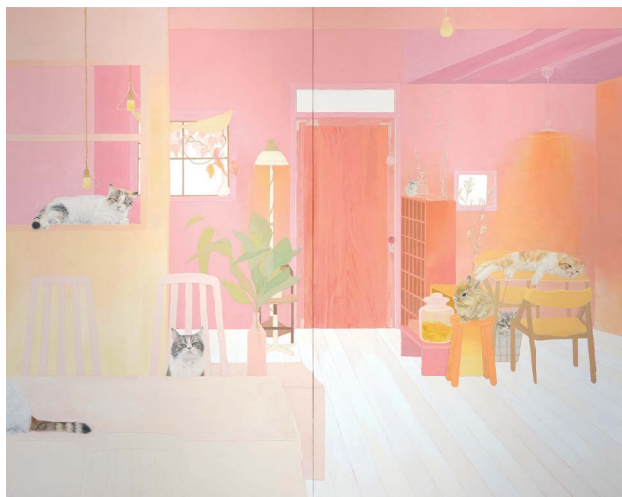
も見た目も異なる家具を作ろうと考えたのですが、パンが膨らむ過程を研究するうち、座ることのできるサイズのパンを焼いて実際に座るということを試みます。

「面白いなと思いました、食べ物に座ることへの抵抗感があり、ふかふかさや匂いなども椅子のイメージとは異なるため、試行錯誤を重ねて最終的にこの形となりました。SDGsと真逆に行くねと言われましたが、作品について説明したりキャプションを読んでもくれた方からは面白いねと評価をいた

だき、楽しんでくれた方が多かったので良かったなと思います」。

ユーモラスで突飛なアイデアながらも、しっかりとした作品へと昇華させています。





卒業・修了制作展 優秀賞

くつろぎ
日本画コース
秋元真愛

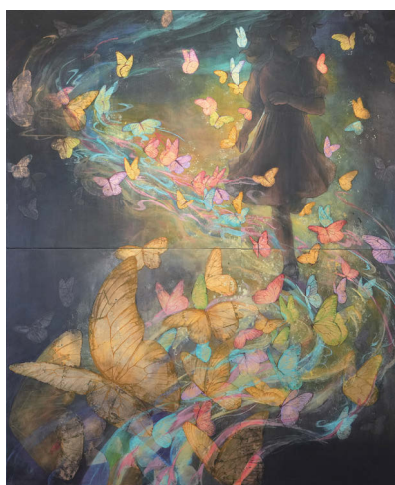


卒業・修了制作展 優秀賞

ブライトン大学賞 佳作

後藤紙店賞

混在に碧
日本画コース
和久田尚希



卒業・修了制作展 優秀賞

CBCテレビ賞

立風賞

勇往邁進
日本画コース
中島梨瑠



卒業・修了制作展 優秀賞

Mofu
洋画コース
半田 藍



卒業・修了制作展 優秀賞



まちを歩く
洋画コース
篠原美結



卒業・修了制作展 優秀賞

混淆
洋画コース
葛谷菜々子



卒業・修了制作展 優秀賞

後藤紙店賞

ひとやすみ
洋画コース
大澤綺



卒業・修了制作展 優秀賞
ブライトン大学賞 優秀賞

苦し紛れのParadise!
洋画コース
若林凜



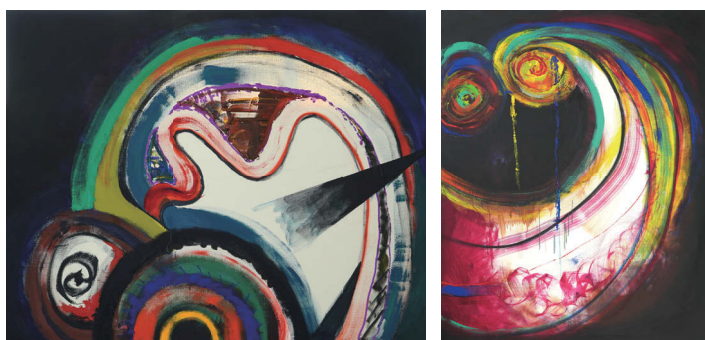
卒業・修了制作展 優秀賞

見た景色はすべて私を
受け入れてくれる気がした
洋画コース
新山はな



卒業・修了制作展 優秀賞
身寄

洋画コース
加納憂斗



卒業・修了制作展 優秀賞
a small world (小さな世界)
現代アートコース
新保あさひ



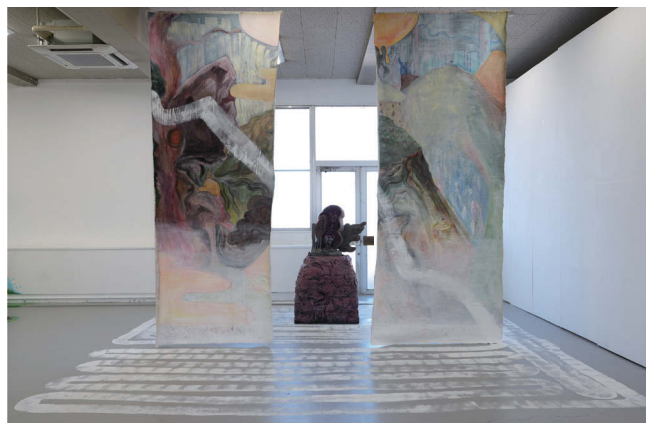
卒業・修了制作展 優秀賞

かもしれない
メタル&ジュエリーデザインコース
澤木亮壮



卒業・修了制作展 優秀賞

バスルーム
コミュニケーションアートコース
石川清菜



卒業・修了制作展 優秀賞

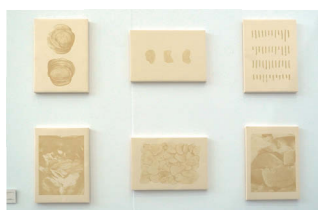
deity of greed
コミュニケーションアートコース
藤原暖生



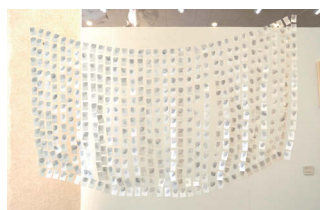
卒業・修了制作展 優秀賞



卒業・修了制作展 優秀賞
ブライトン大学賞 グランプリ
東海テレビ賞



しぐさ



メディアコミュニケーションデザインコース
竹内爽夏



PET



メディアコミュニケーションデザインコース
樋廻里彩



卒業・修了制作展 優秀賞



ニューオノマトペ



ヴィジュアルデザインコース
松尾侑樹



卒業・修了制作展 優秀賞



せんすいくんと海たちの声



先端メディア表現コース
平松咲希



卒業・修了制作展 優秀賞

2人の語り手
イラストレーションコース
加藤晴菜



卒業・修了制作展 優秀賞

The kebab sandwich,
held by a man with a Japanese sword,
costs 635 yen

イラストレーションコース
渡邊銀心



卒業・修了制作展 優秀賞

ナナイロはニジイロではない

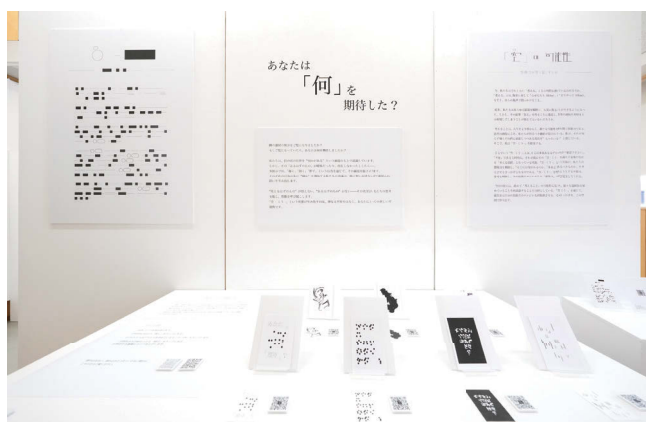
テキスタイルデザインコース
川邊なな



卒業・修了制作展 優秀賞

MOZOワンダーシティ賞

死語リサイクル
ライフスタイルデザインコース
坂部浩二郎



卒業・修了制作展 優秀賞

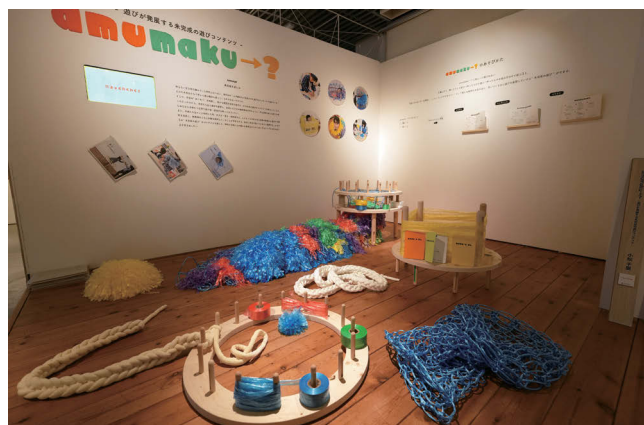
「空-くう-」の可能性
ライフスタイルデザインコース
谷村芽依





卒業・修了制作展 優秀賞
ブライTON大学賞 奨励賞

Shape of Comfort
インダストリアル&セラミックデザインコース
柴田優杏



卒業・修了制作展 優秀賞

amumaku->? -遊びが発展する
未完成の遊びコンテンツ-

スペースデザインコース
小松千聖



卒業・修了制作展 優秀賞

Let's go!
自然探検隊プロジェクト

インダストリアル&セラミックデザインコース
山中千尋



卒業・修了制作展 優秀賞

CBCテレビ賞

Phil Leaf Interior

スペースデザインコース
平田賢



卒業・修了制作展 優秀賞

ある夏休みの月めくり

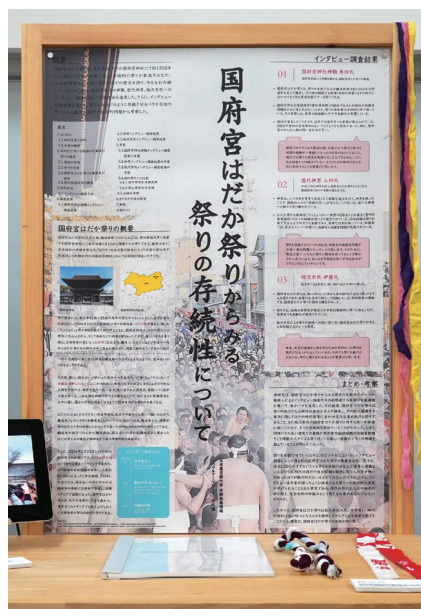
文芸・ライティングコース
各務里音



卒業・修了制作展 優秀賞

ポーズ・キクロス 踊る造花の見た夢は

文芸・ライティングコース
西村咲良



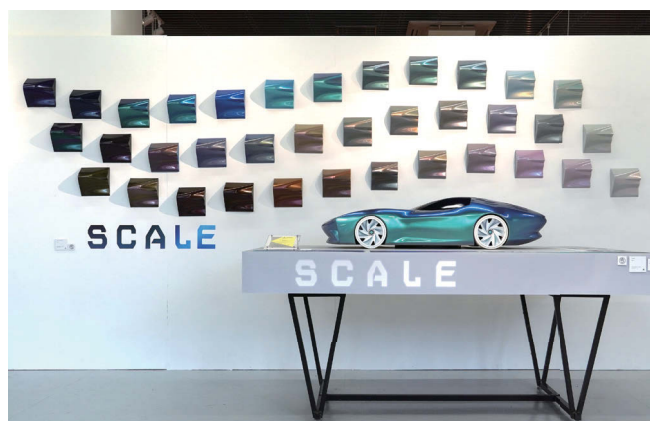
卒業・修了制作展 優秀賞

国府宮
はだか祭りからみる
祭りの
存続性について
リベラルアーツコース
田代凜



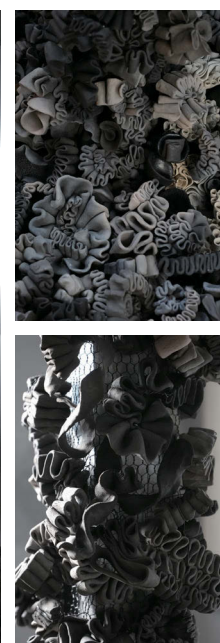
卒業・修了制作展 優秀賞

マンガの
制作者になるために
〜物語が
マンガになる
プロセスについての
考察と実践〜
リベラルアーツコース
田島春佳



卒業・修了制作展 優秀賞

SCALE
カーデザインコース
有馬かこ



ブライトン大学賞 佳作

Farewell
イラストレーションコース
前澤未空



ブライトン大学賞 奨励賞

加藤画材賞

ツチノネ
インダストリアル&
セラミックデザインコース
鈴木祐那





ブライトン大学賞 佳作



ブライトン大学賞 佳作



少女 幼気なぼこぼこ/
少女 ぐるぐると憤む/少女 健気にしんしん



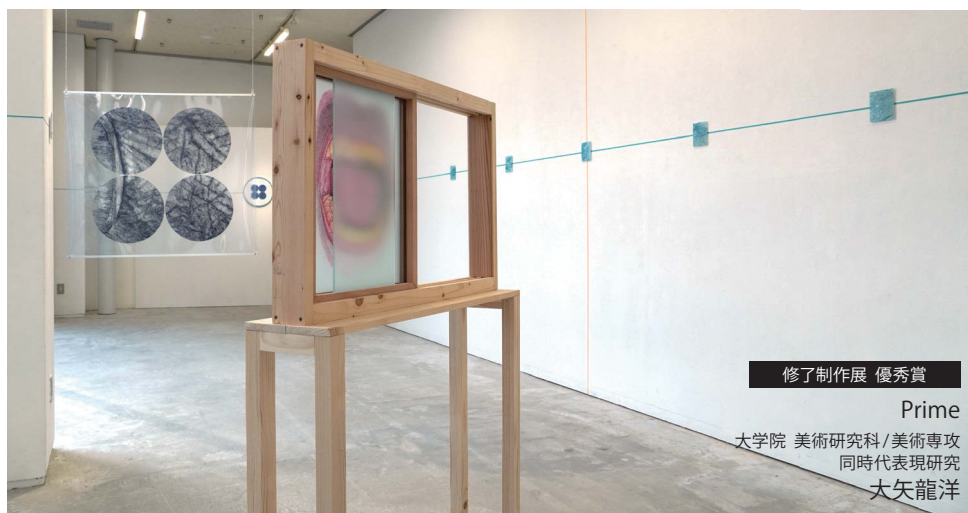
コミュニケーションアートコース
城所ななみ



無常



ヴィジュアルデザインコース
伊藤千晴



修了制作展 優秀賞

Prime

大学院 美術研究科/美術専攻
同時代表現研究
大矢龍洋



修了制作展 優秀賞

「錫おり」～デザインにおける折り紙技法の応用研究～

大学院 デザイン研究科/デザイン専攻

3Dデザイン研究

OTSU GIULIA MIZUE

錫おり



全作品の閲覧はこちらから

www.nua.ac.jp/group_tsusin/degreeShow52/





期間中イベント

第52回名古屋芸術大学 卒業制作展優秀賞・ 第28回ブライトン大学賞 授与式

2025年2月21日（金）、第52回名古屋芸術大学卒業制作展の優秀賞、企業賞、および第28回ブライトン大学賞の発表と授与式を執り行いました。

はじめに、本学学長・來住尚彦が挨拶し、受賞者の努力と学びを称えと共に、彼らを支えてきた教員への感謝の意を表しました。また、学生に対し、創作において経験・知識・

技術は重要であるものの、最も大切なのは「作りたい」という情熱であると強調。卒業制作展での評価は一つの通過点に過ぎず、今後も情熱を持続けることが重要であると述べ、4年間の学びを活かしながら創造力を磨き、成長を続けるよう激励し、さらなる飛躍を願ってスピーチを締めくくりました。

続いて、副学長・萩原周教授が卒業制作展の運営を代表して、これまでの卒業生が社会で活躍してきたことを紹介すると共に、受賞者もその伝統を受け継ぐ存在になることへの期待を表明しました。また、生成AIやデジタル技術の普及により、「本物」や「本気」という

概念が曖昧になりつつある現状に懸念を示しつつ、今回の卒展作品には「確かさ」や「リアルな表現」が感じられたと高く評価し、今後のキャリアに活かしてほしいと激励しました。

ブライトン大学賞授与式では、国際交流センター長・竹内創教授が受賞者を激励しました。「優れた成果を上げた学生に贈られるブライトン大学賞は、大変名誉のある賞です。受賞を通じて、自分の作品が日本国内のみならず海外でも評価されることを実感する機会となることを期待しています。受賞は努力の証でもあり、大いに誇りに思ってください」と述べ、受賞者に祝福の言葉を送りました。



期間中イベント 第3回チャリティーオークション

2025年2月15日（土）、名古屋芸術大学ローターアクトクラブ主催による「名古屋芸術大学 第3回チャリティーオークション」を開催しました。名古屋芸術大学ローターアクトクラブは、地域社会で活動する人や団体とコラボレーションし、共にボランティア活動を行うサークル。これまでもNPO法人や他のローターアクトクラブと協業するなど、さまざまな活動を行ってきました。

売上の一部は、公益財団法人ロータリー日本財団を通じ、ポリオ根絶の支援金として寄付させていただきます。

期間中イベント ウィークエンドコンサート

特設スペースにて音楽領域の学生たちによる「ウィークエンドコンサート」が行われました。



ファゴットアンサンブル



フルートカルテット



クラリネット四重奏



サクソアンサンブル



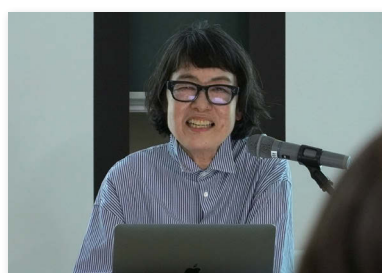
金管五重奏



記念講演

木田真理子さん
線を残すことと
可能性をひらくこと

芸術文化観光専門職大学
准教授 / ダンサー



記念講演

ひびのこづえさん
ふくであそぼ

コスチューム・アーティスト

名古屋芸術大学 音楽領域芸術祭 "TuTTi"



音楽領域では、2回目となるコース横断共同芸術祭を行いました。
Tutti (トゥッティ/伊) は、楽語としては全奏者による「総奏」を指します。
「TuTTi」では、各コースが中心となる演奏会やパフォーマンス等を
期間シリーズ化し、最後に全コース横断演奏会を開催します。
多様な専門性の融合と、それによる新しい文化の創造を目指します。



声優アクティングコース 卒業公演2024 「ガンバ!」



2024年
11月30日(土)・12月1日(日)



ミュージカルコース 2024年度卒業公演 「ALICE the Musical」



2024年
12月20日(金)・21日(土)・22日(日)



KALEIDOSCOPE 2025 「色彩」

2025年2月15日(土)



音楽ケアデザインコース 卒業論文発表会

2025年2月20日(木)



声楽コースオペラ公演 「フィガロの結婚」

2025年
2月23日(日)・24日(月・祝)



「ザ・ベストテンコンサートXV」

2025年3月2日(日)



ピアノコース 「第29回 春のコンサート」

2025年3月10日(月)



表紙の作品

線は呼吸している
卒業・修了制作展
最優秀賞

ヴィジュアル
デザインコース
鈴木雅也

「名古屋芸大
グループ通信」
ウェブサイト



発行：名古屋芸術大学
企画・編集：広報部
デザイン協力：くまな工房一社
印刷：株クイックス
発行日：2025年4月

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報部
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0318
FAX 0568-24-0369

Japan Institution for Higher
Education Evaluation
JIHEE
since 2004
II
UNIVERSITY
2024.4-2031.3